

令和3年度事業報告

定款第39条(事業報告及び決算)に基づき、
本会の令和3年度の事業の報告を行うものである。

1. 会員現況
2. 組織及び業務の分担概要
3. 会議等の概要
 - (1) 総会、(2) 理事会、(3) 顧問・評議員会、(4) 各種委員会
4. 運営・広報事業の概要
5. 国際関係事業の概要
6. 催物事業の概要
7. 調査研究事業の概要
8. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要
9. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

令和3年度事業報告

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、非常に制約のある中での活動となったが、会員のニーズ等を踏まえ、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種の事業を展開した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、事業の実施方法等について検討した。また、会員からの様々な要望に応えるよう本会ウェブサイトを充実するとともに、委員会活動成果を含めた図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITAの加盟国代表機関として関係諸国との技術交流に努めるとともに、国際会議の場等を通じて日本の技術力を世界に発信した。また、海外の文献・技術情報の収集・広報を行った。

催物事業においては、会員の資質向上を図るための研究発表会や講習会を、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート開催を活用するなどして積極的に開催した。なお、現場研修会の実施は、見合せた。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えるよう実施した。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議し、委託者の期待に応えるよう実施した。

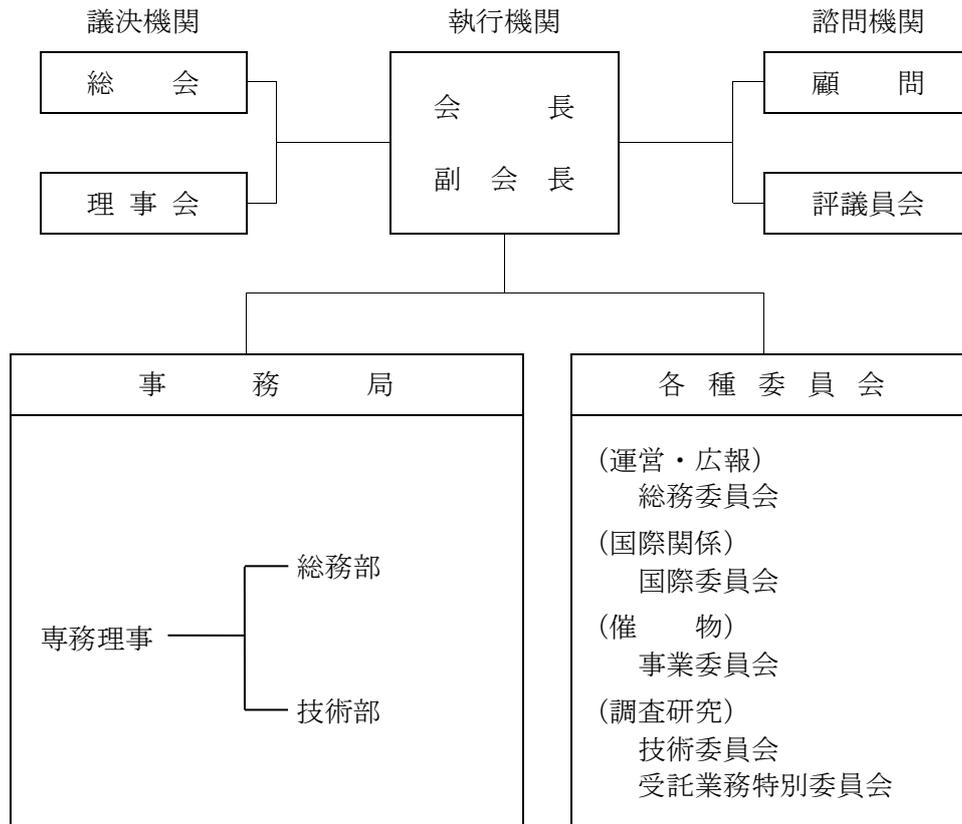
1. 会員現況

1975年（昭和50年）以降2022年（令和4年）3月までの会員現況の推移は、次のとおりである。

会員種別	1975.3 (名)	1985.3 (名)	1995.3 (名)	2005.3 (名)	2015.3 (名)	2021.3 (名)	増 (名)	減 (名)	2022.3 (名)
正会員	160	2,098	1,901	2,054	1,286	1,227	97	▲ 91	1,233
団体会員	160	228	282	359	202	201	3	▲ 3	201
特級	—	3	3	3	1	1	0	0	1
特A級	—	—	28	24	23	23	0	0	23
A級	33	34	9	12	5	5	0	0	5
B級	14	16	20	16	10	10	0	0	10
C級	31	30	30	21	15	15	0	0	15
D級	82	145	192	283	148	147	3	▲ 3	147
個人会員	—	1,870	1,619	1,695	1,084	1,026	94	▲ 88	1,032
一般会員	—	—	—	—	866	805	60	▲ 55	810
推薦会員	—	—	—	—	206	208	30	▲ 31	207
特別会員	—	—	—	—	12	9	3	▲ 2	10
名誉会員	—	—	—	—	0	4	1	0	5
学生会員	—	—	—	—	—	8	1	▲ 4	5
賛助会員	—	—	—	—	169	202	67	▲ 53	216
計	160	2,098	1,901	2,054	1,455	1,437	165	▲ 148	1,454

摘要：1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置
2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を5回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。なお、理事、監事の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会の他、受託(請負等)業務に応じて6つの特別委員会・検討会を設け、各委員会を開催して会務を分担した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を5月と11月に開催し、会長の諮問に応じた。なお、顧問・評議員の名簿は別表のとおりである(5頁参照)。

一般社団法人日本トンネル技術協会
理事会名簿

令和4年3月末現在

№	区分	氏名	所属	役職
1	会長	菊川 滋	(一財)橋梁調査会	理事長
2	副会長	深沢 成年	(独)鉄道・運輸機構	理事
3	副会長	押味 至一	(一社)日本建設業連合会	副会長、土木本部長
4	専務理事	時政 宏	(一社)日本トンネル技術協会	専務理事
5	理事	松崎 薫	東日本高速道路(株)	取締役常務執行役員 ※【本会総務委員長】
6	理事	桑原 徹郎	本州四国連絡高速道路(株)	取締役常務執行役員
7	理事	関本 宏	阪神高速道路(株)	代表取締役専務執行役員
8	理事	小山 宏	東日本旅客鉄道(株)	執行役員建設工事部長
9	理事	佐藤 俊哉	電源開発(株)	執行役員
10	理事	佐々木 健	東京都下水道局	計画調整部長
11	理事	佐藤 健人	(株)大林組	代表取締役副社長執行役員
12	理事	白川 賢志	大成建設(株)	常務執行役員
13	理事	飯田 廣臣	(株)奥村組	顧問
14	理事	上総 周平	五洋建設(株)	執行役員副社長
15	理事	宮本 雅文	佐藤工業(株)	相談役
16	理事	佐藤新一郎	飛島建設(株)	取締役専務執行役員
17	理事	木村 雅哉	西松建設(株)	執行役員
18	理事	岡野利喜造	(株)フジタ	取締役常務執行役員
19	理事	山崎 政俊	(株)不動テトラ	常務執行役員
1	監事	並川 賢治	首都高速道路(株)	執行役員
2	監事	後藤 良平	東亜建設工業(株)	執行役員
3	監事	森藤 眞治	東急建設(株)	顧問

顧問・評議員会名簿

令和4年3月末現在

№	区分	氏名	所属	役職
1	顧問	萩原 浩	(一社)日本トンネル技術協会	顧問
2	顧問	小森 博	(一社)海外鉄道技術協力協会	顧問
3	顧問	佐藤 信彦	(一社)日本トンネル技術協会	顧問
4	顧問	谷口 博昭	(一財)建設業技術者センター	理事長
1	評議員	福井 勝則	東京大学	大学院教授
2	評議員	足達 謙二	(独)水資源機構	ダム事業部長
3	評議員	伊勢田 敏	(一社)日本建設業連合会	常務執行役
4	評議員	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会	業務執行理事
5	評議員	藤井 元生	中日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
6	評議員	松田 均	西日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
7	評議員	依田 淳一	(独)鉄道・運輸機構	技術企画部長
8	評議員	大石 敬司	東京地下鉄(株)	鉄道本部改良建設部長
9	評議員	谷本 俊哉	東京都交通局	建設工務部長
10	評議員	高田 悦久	鹿島建設(株)	専務執行役員
11	評議員	河田 孝志	清水建設(株)	土木総本部顧問
12	評議員	嘉藤 好彦	(株)熊谷組	代表取締役執行役員副社長
13	評議員	見喜 一朗	(株)鴻池組	専務執行役員
14	評議員	岩田 充弘	(株)竹中土木	取締役執行役員副社長
15	評議員	谷口 和善	鉄建建設(株)	取締役常務執行役員
16	評議員	大林 東壽	東洋建設(株)	取締役専務執行役員
17	評議員	中林 雅昭	戸田建設(株)	常務執行役員
18	評議員	小島 伸介	日本国土開発(株)	執行役員
19	評議員	寺内 伸	(株)安藤・間	常務執行役員
20	評議員	中西 隆夫	前田建設工業(株)	代表取締役専務執行役員
21	評議員	森 理太郎	三井住友建設(株)	常務執行役員
22	評議員	元木 洋	青木あすなろ建設(株)	顧問
23	評議員	福武 栄一	(株)大本組	取締役執行役員
24	評議員	鈴木 明	(株)銭高組	執行役員
25	評議員	帷子 幸一	大豊建設(株)	土木本部土木部長
26	評議員	牧原 久利	若築建設(株)	取締役常務執行役員
27	評議員	田中 宏征	日本製鉄(株)	建材開発技術部長
28	評議員	井上 年史	JIMテクノロジー(株)	代表取締役副社長
29	評議員	入江 健二	メトロ開発(株)	代表取締役社長 ※【本会事業委員長】
30	評議員	西村 和夫	東京都立大学	理事 ※【本会技術委員長】
31	評議員	鈴木 徹	中日本高速道路(株)	国際・技術部長 ※【本会国際委員長】

3. 会議等の概要

(1) 令和3年度定時総会

日 時： 令和3年6月8日(火)16:00～16:45

場 所： 弘済会館 4階 萩

出席者： 出席社員 社員総員 1,228名中 869名(70.8%)

出席 53名、書面による議決権行使 64名(全ての議案に賛成)、
委任状 752名

出席役員 理事：谷口博昭、村尾光弘、土橋浩、佐々木健、河田孝志
白川賢志、上総周平、岡野利喜造、森理太郎、佐藤新一郎
時政宏 以上 11名

監事：松崎薫、谷口和善 以上 2名

(総会の成立)

時政専務理事が上記出席社員数を報告し、総会が成立した旨を告げるとともに、会員に対し総会の模様をインターネット配信していることを報告した。

(議長選出)

定款第15条の規定により、総会の議長を谷口博昭会長にお願いし、谷口博昭会長から挨拶があった。

(議事録署名者)

議長から、定款第19条第2項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席会員の松崎薫氏、白川賢志氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

(議 事)

谷口議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

(1)第1号議案(報告事項)令和2年度事業報告

(2)第2号議案(審議事項)令和2年度事業収支決算

上記2件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和2年度事業報告について、会員現況、組織及び業務の分担概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況(運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業)、表彰の選考概要、及び研究助成の選考概要の説明があった。

引き続き、定款第39条の規定に基づく定時総会の承認事項である令和2年度事業収支決算について、9種類の財務諸表等のうち正味財産増減計算書を用いて説明があった。総括と

して、経常収益が 212,604 千円、経常費用が 210,260 千円となったことから、当期一般正味財産増減額は 2,343 千円の増額で、一般正味財産残高は期首 149,373 千円から期末 151,717 千円に増額となった旨の説明があった。

引き続き、松崎薫監事から監査結果の報告があった。

谷口議長が第1号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、谷口議長が第2号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

次に谷口議長から、

(3)第3号議案(報告事項)令和3年度事業計画

(4)第4号議案(報告事項)令和3年度事業収支予算

上記2件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和3年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業のそれぞれの概要についての説明があった。

次に、先の理事会で承認された令和3年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から 5,550 千円減額の 219,391 千円、経常費用は前年度予算から 24,751 千円減額の 208,473 千円とし、次年度以降の事業が円滑に実施できるよう当期一般正味財産額の増額を確保するよう計画している旨の説明があった。

谷口議長が第3号及び第4号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

(5)第5号議案(審議事項)名誉会員の推薦

谷口議長は、上記について事務局の説明を求めた。

先の理事会において、令和3年度定時総会をもって退任される谷口博昭会長を名誉会員の候補者として決定したので、本日の定時総会で推挙する旨の説明があった。

谷口議長が第5号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、第5号議案は原案どおり承認された。

(6)第6号議案(審議事項)理事及び監事の選任

谷口議長の指示により、事務局から以下の説明があった。

定款第12条第2号、第21条第1項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものである。本総会終了を以って任期満了となる理事の谷口博昭氏、小島滋氏、宮本洋一氏、村尾光弘氏、土橋浩氏、高瀬昭雄氏、大石敬司氏、河田孝志氏、見喜一朗氏、山田裕之氏、吉川大三氏、森理太郎氏の12名、監事の松崎薫氏、谷口和善氏の2名、及び辞任の申し出があった監事の永友久信氏に対し、先の理事会で推薦された理事12名及び監事3名の候補者の紹介があった。

谷口議長が第6号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

新任の理事: 菊川滋氏、深沢成年氏、押味至一氏、松崎薫氏、関本宏氏、小山宏氏、
佐藤俊哉氏、佐藤健人氏、飯田廣臣氏、宮本雅文氏、木村雅哉氏、
山崎政俊氏

新任の監事: 並川賢治氏、後藤良平氏、森藤眞治氏

(その他)

事務局から令和3年度事業を推進するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の委員長を紹介があった。

総務委員長は理事の松崎薫氏(新任)、国際委員長は評議員の鈴木徹氏(留任)、事業委員長は評議員の入江健二氏(留任)、技術委員長は評議員の西村和夫氏(留任)である。

また、谷口会長から、令和3年度功績賞3名及び功労賞2名、並びに令和2年度施工体験発表会の最優秀賞2名を表彰した。

(閉会)

以上をもって本日の議事が終了したので、谷口議長は閉会を宣した。

(2) 理事会

令和3年度第1回理事会

令和3年5月20日(木)開催 理事12名、監事2名 計14名出席

- ①令和3年度理事、監事、評議員
- ②特別会員の推薦
- ③名誉会員の推薦
- ④顧問の委嘱
- ⑤令和3年度定時総会議案
- ⑥常設委員会委員長の選任
- ⑦JTA 諸規程の改定

令和3年度第2回理事会

令和3年6月8日(火)開催 理事10名、監事2名 計12名出席

報告事項のみ

令和3年度第3回 理事会

令和3年6月8日(火)開催 理事14名、監事3名 計17名出席

①役員(会長、副会長)の選定

会長:菊川 滋

副会長:深沢 成年、押味 至一

令和3年度第4回 理事会

令和3年11月16日(火)開催 理事16名、監事3名 計19名出席

①評議員の交替

評議員辞任:村尾 充弘 評議員選任:松田 均

評議員辞任:佐々木伸也 評議員選任:小島 伸介

評議員辞任:井上 基宏 評議員選任:福武 栄一

②令和4年度定時総会開催日の選定

③JTA表彰の募集

④設立50周年記念事業積立金取扱規程の制定

令和3年度第5回 理事会

令和4年3月18日(金)開催 理事12名、監事2名 計14名出席

①JTA功績賞、功労賞(令和4年度表彰)の受賞者の決定

②令和4年度理事、監事、評議員の構成

③令和4年度定時総会議案要綱

(3) 顧問・評議員会

令和3年度第1回顧問・評議員会 令和3年5月20日(木)開催

顧問1名、評議員22名、その他3名 計26名出席

①令和3年度定時総会議案

令和3年度第2回顧問・評議員会 令和3年11月16日(火)開催

顧問1名、評議員20名、その他2名 計23名出席

①令和3年度事業活動及び上半期収支現況

②研究助成(令和4年交付)の募集

③令和4年度JTA表彰の募集

(4) 各種委員会（令和3年度開催状況）

委員会名	構成 人員 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)	委員会名	構成 人員 (人)	開催 回数 (回)	出席 人数 (人)
1 総務委員会	50	19	222	5 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会	157	8	251
委員会	15	3	33	委員会	56	1	49
企画運営幹事会	9	2	18	幹事会	41	3	83
広報小委員会	7	1	8	機械化施工小委員会	37	2	65
会誌 WG	14	12	159	野田追トンネル(北)工区崩落事故特別技術委員会	23	2	54
ホームページ WG	5	1	4				
2 国際委員会	103	20	260	6 効率的点検特別委員会	23	6	118
委員会	17	1	17	7 盤ぶくれ対策特別委員会	39	10	208
ITA小委員会	20	3	67	8 改築設計施工技術特別委員会	29	12	302
技術統括 WG	16	3	38	9 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会	6	1	25
海外情報小委員会	7	0	0	10 矢上川地下調整池施工技術検討会	5	3	50
文献 WG	22	0	0				
ニュース WG	9	8	80				
対外広報 WG	12	5	58				
3 事業委員会	31	6	103				
委員会	19	3	62				
50周年記念事業準備会	12	3	41				
4 技術委員会	170	21	350				
委員会	17	1	17				
共通技術小委員会	15	0	0				
資機材検索リスト運営 WG	6	0	0				
山岳工法小委員会	21	1	19				
支保 WG	27	5	107				
地山評価 WG	17	4	63				
防・排水工 WG	13	6	81				
都市トンネル小委員会	18	0	0				
安全環境小委員会	20	0	0				
保守管理小委員会	16	4	63				
				合計	613	106	1,889

(注)リモート会議、メール審議、持ち回り審議を含む。

(委員会数と構成員延べ人数)

区分	委員会	小委員会 幹事会	WG等	計	延べ 人数
常設	4	9	11	24	354
特別	6	3		9	259
計	10	12	11	33	613

令和3年度各種委員会名簿

注) ◎幹事長兼任 ○幹事兼任 ()前任者

1. 総務委員会(15)

委員長	松崎 薫
副委員長	高田 悦久
委員	森戸 義貴
〃	森 信哉
〃	依田 淳一
〃	並川 賢治
〃	小山 宏
〃	大石 敬司
〃	谷本 俊哉
〃	佐藤 健人
〃	嘉藤 好彦
〃	白川 賢志
〃	河田 孝志
〃	岩田 充弘
〃	谷口 和善

1.1 企画運営幹事会(9)

幹事長	依田 淳一
副幹事長	吉富 幸雄
幹事	伊藤 真
〃	大津 敏郎
〃	本田 諭
〃	伊藤 聡
〃	山岸 隆史
〃	(西岡 和則)
〃	平井 卓
〃	内藤 将史

1.2 広報小委員会(7)

委員長	吉村 正
委員	中野 清人
〃	山田 隆昭
〃	野城 一栄
〃	見郷 浩二
〃	河越 勝
〃	須藤 敏明

1.2.1 会誌WG(14)

主査	山田 隆昭
幹事	野坂 周子
〃	堀川 淳
〃	(福山 恵夫)
〃	中野 清人
〃	村上 哲哉
〃	谷口 信博
〃	西岡 和則
〃	垣見 康介
〃	(金岡 幹)
〃	吉富 幸雄
〃	澤 徹
〃	久多羅木吉治
〃	松原 利之
〃	森 正彦
協力者	山本 育徳

1.2.2 ホームページWG(5)

主査	須藤 敏明
幹事	伊藤 哲
〃	青柳 隆浩
〃	安藤 拓
〃	平井 卓

2. 国際委員会(17)

委員長	鈴木 徹
委員	垣下 禎裕
〃	福井 勝則
〃	砂金 伸治
〃	日下 敦
〃	清水 健志
〃	村田 重雄
〃	白鳥 明
〃	中野 清人
〃	木梨 秀雄
〃	青柳 隆浩

委員	垣見 康介
〃	大塚 勇
〃	安田 亨
〃	出本 剛史
顧問	石田 積
〃	福本 勝司

2.1 ITA小委員会(20)

委員長	砂金 伸治
委員	杉本 光隆
〃	岸田 潔
〃	河田 皓介
〃	日下 敦
〃	吉川 直孝
〃	今井 啓文
〃	山崎 哲也
〃	真下 英人
〃	山下 健司
〃	北村 義宜
〃	大森 禎敏
〃	小野 知義
〃	淡路 動太
〃	大塚 勇
〃	満尾 淳
〃	西尾 陽平
〃	(檜舘 学)
〃	能登 和幸
〃	保利 彰宏
〃	小松原 涉

2.1.1 技術統括WG(16)

主査	砂金 伸治
幹事	佐々木 亨
〃	大崎 友輝
〃	遠藤啓一郎
〃	新宮 康之
〃	辻川 泰人

幹事 小出 孝明
 " 鈴木 拓也
 " 長田 翔平
 " 土田 隆史
 " アトザムアスマン
 " 秋山 崇裕
 " 田中 悠一
 " 江口 康則
 " 山岡 一雅
 " 王 偉沢

2.2 海外情報小委員会(7)

委員長 福井 勝則
 委員 清水 健志
 " 日下 敦
 " 堀口 陽子
 " 橋口 弘明
 " 秋好 賢治
 " 横尾 敦

2.2.1 海外文献WG(22)

主査 福井 勝則
 幹事 日下 敦
 " 萩原 秀樹
 " 石原 陽介
 " 橋口 弘明
 " 堀口 陽子
 " 岡 滋晃
 " 新 孝一
 " 仲山 貴司
 " 山下 健司
 " 今泉 和俊
 " 藤原 浩一
 " 尾畑 洋
 " 河上 清和
 " 瀬谷 正巳
 " 谷 卓也
 " 畑生 浩司
 " 満尾 淳
 " 中山 卓人

幹事 米田 新
 " 野間 達也
 " 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG(9)

主査 清水 健志
 幹事 志田 潤平
 " (松本 貴之)
 " (阿久津友宏)
 " 大畠 拓也
 " 天童 涼太
 " 中田 祐輔
 " 内藤 雅人
 " 篠原 慶二
 " 山下 高俊
 " 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG(12)

主査 清水 健志
 幹事 竹居 雅彦
 " 鈴木 遼
 " 日下 敦
 " 佐々木翔太
 " (小川 隆文)
 " 菅原 千尋
 " 内海 和仁
 " 中島 純也
 " 秋好 賢治
 " 池田 廉
 " 尾畑 洋
 " 山田 宣彦

3. 事業委員会(19)

委員長 入江 健二
 委員 野坂 周子
 " 佐原 圭介
 " 中野 清人
 " 嶋田 司
 " 長野 克哉
 " 泉谷 信夫

委員 河邊 信之
 " 西浦 秀明
 " 岡村 正典
 " 山岸 隆史
 " 河越 勝
 " 垣見 康介
 " (金岡 幹)
 " 友野 雄士
 " 須志田藤雄
 " 久多羅木吉治
 " 戸田 一生
 " (内藤 将史)
 " 築地 功
 " 安田 茂人

4. 技術委員会(17)

委員長 西村 和夫
 委員 杉本 光隆
 " 日下 敦
 " 都築 保勇
 " 佐原 圭介
 " 八木 弘
 " 中野 清人
 " 小山 宏
 " 吉村 正
 " 泉谷 信夫
 " 木梨 秀雄
 " 中村 誠喜
 " 青柳 隆浩
 " (西岡 和則)
 " 手塚 仁
 " 安藤 拓
 " 友野 雄士
 " 内藤 将史

4.1 共通技術小委員会(15)

委員長 都築 保勇
 委員 長田 英和
 " 日下 敦
 " 中野 清人

委員 松永 卓也
 " 一寸木 朋也
 " 染次 治仁
 " 泉谷 信夫
 " 吉本 正浩
 " 垣見 康介
 " 築地 功
 " 大谷 達彦
 " 河邊 信之
 " 北澤 剛
 幹事 高氏 昇

4.1.1 資機材検索リスト運営WG(6)

主査 松永 卓也
 副主査 吉村 正
 委員 鈴木 正憲
 " 中田 晴久
 " 越田 健
 " 篠原 慶二

4.2 山岳工法小委員会(21)

委員長 佐原 圭介
 特別委員 上野 光
 " 中野 清人
 委員 日下 敦
 " 山崎 哲也
 " 水野光一朗
 " 森岡 宏之
 " 野城 一栄
 " 河邊 信之
 " 木梨 秀雄
 " 徳永 満善
 " 青柳 隆浩
 " 手塚 仁
 " 吉野 隆之
 " 石井 三郎
 " 友野 雄士
 " 築地 功
 " 大谷 達彦

委員 末松 幸人
 " 森田 篤
 " 鷹觜 智司

4.2.1 支保WG(27)

主査 佐原 圭介
 委員 菊地 浩貴
 " 上谷 明生
 " 小澤 啓明
 " 稲葉 秀雄
 " 河村 巧
 " 西村 友宏
 " (古家 義信)
 " 浜田 元
 " 村上 和哉
 " 大畑 雅義
 " (青木 宏一)
 " 富澤 直樹
 " 大森 禎敏
 " 吉野 隆之
 " 石井 三郎
 " 金子 哲也
 " (須藤 敏明)
 " 川島 義和
 " 三浦 雅也
 " 岩城 信也
 " 今村 新吾
 " (内藤 将史)
 " 熊谷 幸樹
 " 鈴木 健
 " 山仲 徹
 " 野間 達也
 " 水谷 和彦
 " 中込 正貴
 " (鎌田 修司)
 " 國村 省吾
 " 五十嵐数馬

4.2.2 地山評価WG(17)

主査 上野 光
 顧問 木谷日出男
 委員 小林 大助
 " 河村 祥一
 " 田中 姿郎
 " 奥澤 康一
 " 栗原 啓丞
 " 片山 政弘
 " 淡路 動太
 " 小山 俊滉
 " 山下 雅之
 " 永井 誠二
 " 小熊 登
 幹事 中谷 匡志
 " 石濱 茂崇
 " 高馬 崇
 " 松長 剛

4.2.3 防・排水工WG(13)

主査 中野 清人
 委員 巽 義知
 " 上野 光
 " 辰巳 順一
 " 斎藤 有佐
 " 手塚 康成
 " 上岡 真也
 " 金子 哲也
 " (小原 伸高)
 " (須藤 敏明)
 " 辻川 泰人
 " 塚本 祐司
 " 増田 祐一
 " 四谷 敦
 幹事 沖原 穂高

4.3 都市トンネル小委員会(18)

委員長 泉谷 信夫
 委員 佐原 圭介

委員 一寸木朋也
 〃 本田 諭
 〃 林田 岳士
 〃 大塚 信一
 〃 岡 滋晃
 〃 松原 健太
 〃 福居 雅也
 〃 中川 雅由
 〃 河越 勝
 〃 赤津 基博
 〃 中村 隆良
 〃 高村勝之進
 〃 久多羅木吉治
 〃 稲田 義和
 〃 片岡希誉司
 〃 五十嵐英史

4.4 安全環境小委員会(20)

委員長 中野 清人
 委員 梅林 幾彦
 〃 森本 智
 〃 佐藤 誠
 〃 伊藤 真
 〃 ○ 吉川 直孝
 〃 土屋 良直
 〃 ○ 小林 大助
 〃 森谷 剛
 〃 中島 陽
 〃 嶋本 敬介
 〃 ○ 尾畑 洋
 〃 ○ 吉野 隆之
 〃 ○ 三原 泰司
 〃 ○ 浅野健一郎
 〃 ○ 岡山 孝
 〃 ○ 中原 法久
 〃 ○ 田辺 昭博
 〃 ○ 三上 浩
 〃 ○ 園田 広樹

4.5 保守管理小委員会(16)

委員長 小山 宏
 幹事長 志野 達也
 〃 (下山 貴史)
 委員 梅林 幾彦
 〃 日下 敦
 〃 大津 敏郎
 〃 森 健太郎
 〃 野本 一美
 〃 玉松潤一郎
 〃 染次 治仁
 〃 稲田 聡
 〃 森岡 宏之
 〃 野城 一栄
 〃 永田 常雄
 〃 北川 真也
 〃 川端 康夫
 幹事 藤田 健史
 〃 (籠 雅貴)

5. 北海道新幹線、新函館北
斗・札幌間トンネル施工技
術委員会(56)

委員長 三上 隆
委員 小山 幸則
" 大島 洋志
" 朝倉 俊弘
" 東畑 郁生
" 五十嵐敏文
" 藤井 義明
" 川村 信人
" 岸田 潔
" 太田 岳洋
" 倉橋 稔幸
" 大津 直
" 北川 修三
" 小西 真治
" 野城 一栄
" 岡野 法之
" 島村 昭志
オブザーバ 桑島 正樹
" 保田 尚俊
協力者 岡田 良平
" (深沢 成年)
" 小野 顕司
" (渡邊 修)
" 倉川 哲志
" 本堂 亮
" 藤原 哲男
" (村上 明)
" 土井 充
" 玉井 真一
" 佐原 圭介
" 千代 啓三
" 上野 光
" (依田 淳一)
" 竹津 英二
" (伊藤 勝美)
" 福山 恵夫
" 阿部 信介

協力者 南 邦明
" 萩原 秀樹
" 梶田 覚
" 魚津 宗
" 米澤 豊司
" (野口 昌美)
" 須澤 浩之
" 佐々木 裕
" 小林 等
" 永利将太郎
" (石山 民一)
" 落合 洋則
" 伊藤 浩
" 佐藤 和正
" (才神 貴幸)
" 金子 伸生
" 鶴谷 建太
" (今井 寛樹)
" 高橋源太郎
" 吉村 直人
" 斉藤 道真
" (橋本 浩市)
" 伊藤 久雄
" 石井 秀和
" 竹村 和晃
" 山口 真基
" 石川 大輔
" 羽生田康雄
" 松本 浩司

5.1 北海道新幹線、新函館北
斗・札幌間トンネル施工技
術委員会幹事会(41)
幹事長 岸田 潔
幹事 勝見 武
" 太田 岳洋
" 小西 真治
" 岡野 法之
" 野城 一栄
" 島村 昭志

オブザーバ 保田 尚俊
" 菊本 統
協力者 小野 顕司
" 藤原 哲男
" (村上 明)
" 土井 充
" 佐原 圭介
" 千代 啓三
" 上野 光
" (伊藤 勝美)
" 梶田 覚
" 魚津 宗
" 米澤 豊司
" 阿部 信介
" 南 邦明
" 萩原 秀樹
" 須澤 浩之
" 佐々木 裕
" 小林 等
" 永利将太郎
" 落合 洋則
" (石山 民一)
" 野口 昌美
" 伊藤 浩
" 佐藤 和正
" (才神 貴幸)
" 金子 伸生
" 鶴谷 建太
" (今井 寛樹)
" 高橋源太郎
" 吉村 直人
" 斉藤 道真
" (橋本 浩市)
" 伊藤 久雄
" 石井 秀和
" 竹村 和晃
" 山口 真基
" 石川 大輔
" 羽生田康雄
" 松本 浩司

5.2 北海道新幹線、機械化施工小委員会(37)

委員長	小山 幸則
委員	杉本 光隆
〃	中川 光弘
〃	五十嵐敏文
〃	勝見 武
〃	藤井 義明
〃	岸田 潔
〃	岩波 基
〃	太田 岳洋
〃	上原 元樹
〃	津野 究
〃	小西 真治
〃	島村 昭志
〃	野々村政一
〃	野口 守
オブザーバー	菊本 統
〃	上澤 真平
協力者	綿貫 正明
〃	(深沢 成年)
〃	小野 顕司
〃	(渡邊 修)
〃	岡田 良平
〃	本堂 亮
〃	倉川 哲司
〃	(村上 明)
〃	藤原 哲男
〃	土井 充
〃	玉井 真一
〃	佐原 圭介
〃	千代 啓三
〃	(依田 淳一)
〃	上野 光
〃	福山 恵夫
〃	(魚津 宗)
〃	萩原 秀樹
〃	須澤 浩之
〃	岡田 岳彰
〃	(斉藤 道真)

協力者 小林 等

〃 金子 伸生
 〃 吉村 直人
 〃 山口 真基
 〃 松本 浩司

5.3 野田追込初(北)工区崩落

事故特別技術委員会(23)

委員長	小山 幸則
委員	大島 洋志
〃	朝倉 俊弘
〃	岸田 潔
〃	中川 光弘
〃	倉橋 稔幸
〃	野城 一栄
〃	川越 健
協力者	綿貫 正明
〃	依田 淳一
〃	小野 顕司
〃	岡田 良平
〃	本堂 亮
〃	玉井 真一
〃	佐原 圭介
〃	竹津 英二
〃	福山 恵夫
〃	米澤 豊司
〃	梶田 覚
〃	南 邦明
〃	小林 等
〃	伊藤 浩
〃	石井 秀和

6. 効率の点検特別委員会(23)

委員長	西村 和夫
副委員長	砂金 伸治
委員	石田 哲也
〃	森本 智
〃	藤田 一宏
〃	大津 敏郎
〃	八木 弘
〃	小林 康範
〃	山田 隆昭
〃 ◎	松岡 茂
〃 ○	須藤 敏明
〃 ○	西脇 敬一
〃 ○	平間 昭信
〃 ○	土屋 智史
〃 ○	望月 誠一
〃 ○	岡部 正
〃 ○	重田 佳幸
〃 ○	高橋 幸一
〃 ○	北澤 隆一
協力者	中野 清人
〃	山崎 哲也
〃	小林 大助
〃	上谷 明生

7. 盤ぶくれ対策特別委員会(39)

委員長	西村 和夫
副委員長	砂金 伸治
委員	蔣 宇静
〃	菊本 統
〃	日下 敦
〃	上野 光
〃	嶋本 敬介
〃	藤田 一宏
〃	大津 敏郎
〃	萩野 政行
〃	八木 弘
〃	岩尾 哲也
〃 ◎	山田 隆昭

委員○	太田 裕之	8. 改築特別委員会 (29)	協力者	勘定 茂
〃 ○	河邊 信之	委員長	〃	田上 涼平
〃 ○	谷口 信博	委員	〃	中野 清人
〃 ○	板谷 裕次	〃	〃	山崎 哲也
〃 ○	宮嶋 保幸	〃	〃	菅原 千尋
〃 ○	青木 宏一	〃	〃	沖原 穂高
〃 ○	安藤 拓	〃		
〃 ○	須藤 敏明	〃		
〃 ○	川島 義和	〃		
〃 ○	川端 康夫	〃		
〃 ○	盛重 知也	〃		
〃 ○	小出 孝明	〃 ◎		
協力者	遠藤 皓介	委員○		
〃	高橋 涼	〃 ○		
〃	(山崎 敏史)	〃 ○		
〃	北村 元	〃 ○		
〃	中島 康介	〃 ○		
〃	池端 信哉	〃 ○		
〃	北川 真史	〃 ○		
〃	勘定 茂	〃 ○		
〃	田上 涼平	〃 ○		
〃	桐野 義忠	〃 ○		
〃	渡瀬 梓	〃 ○		
〃	中野 清人	協力者		
〃	山崎 哲也	〃		
〃	小林 大助	〃		
〃	沖原 穂高	〃		
		(吉田 泰規)		

		9. 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業技術検討委員会(6)		
		委員長		小山 幸則
		委員		大石 敬司
		〃		花井 徹夫
		〃		岡村 浩志
		〃		豊川 士朗
		〃		陰山 健司

		10. 矢上川地下調節池 施工技術検討会(5)		
		委員長		小山 幸則
		委員		砂金 伸治
		〃		岩波 基
		〃		菊本 統
		〃		真下 英人

常設委員会および特別委員会の参加人員等

注; 前任者を除く。

構成延べ人員	613 名
実 人 員	361 名

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 松崎 薫

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①令和3年度決算、事業報告及び令和4年度予算案、事業計画を検討した。
- ②令和元年度に策定したJTAビジョンを踏まえ、5つの事業の実施方策を検討した。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 依田 淳一

- ③JTAビジョンを踏まえて、研究助成、JTA表彰等の5つの事業の実施に関して具体策を検討した。

(2) 広報小委員会

委員長 吉村 正

- ④本会における広報活動の現況を踏まえ、今後の広報についてあり方について検討を開始した。
- ⑤ウェブサイト及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑥各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 鈴木 徹

ITA活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

- ①ITAを通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会(WG)に参加するなどITAの場の活用に努めた。

(1) ITA小委員会

委員長 砂金 伸治

- ②2021年6月にバーチャルで開催されたITA総会、及び同年9月にバーチャルで開催された「トンネルウィーク」(世界トンネル会議(WTC)の代替イベント)への対応方針について検討し、対応した。これらの結果は、会誌2021年12月号で報告した。
- ③2022年9月にデンマーク・コペンハーゲンで開催される第48回ITA総会、及びWTC2022への対応方針について検討した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ④トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑤わが国の技術を積極的に世界に広報するため、「Tunnelling Activities in Japan 2022」の編集作業を実施した。

頒布図書一覧

令和3年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 301部 を頒布した。

刊行年度	図書番号	図 書 名	頒布部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－	-	55
1990	90001	大深度地下利用技術(邦文)	-	8
	90002	大深度地下利用技術(英文)	-	7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－	-	32
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－	1	8
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－	-	9
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－	1	25
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－	-	51
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引	-	15
	200105	覆工コンクリート施工の手引き	3	69
2002	200207	SUS9 国際会議	-	20
2003	200303	性能照査型ガイドライン講習会	2	27
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－	1	98
2010	201003	第66回施工体験発表会(山岳)	-	20
	201004	第67回施工体験発表会(都市)	-	24
2014	201401	トンネル年報 2014	-	45
2015	201501	トンネル年報 2015	-	44
	201504	都市部近接施工ガイドライン	57	49
	201505	設立40周年記念事業「シールド技術変遷史」 ※ 文献コピー扱い	5	130
2016	201601	トンネル年報 2016	-	46
2017	201701	トンネル年報 2017	-	46
2018	201801	トンネル年報 2018	-	51
	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	3	215
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	2	283
2019	201901	トンネル年報 2019	2	125
2020	202001	トンネル年報 2020	30	220
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	174	78
2021	202101	トンネル年報 2021	20	220
合 計 28件			301	2,020

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

本会の事業活動に対して、会員をはじめ広く一般の理解と関心を高め、その参加・協力を得るとともに、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図るために実施した。現下の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、リモート開催を行うなど、実施に努めた。

(1) 各種催物

① 現場研修会

毎年随時実施している国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等各種トンネル工事現場での研修会(見学会)については、新型コロナウイルス感染状況により昨年度に引き続き、実施を見合わせた。

② 施工体験発表会

第 88 回施工体験発表会は、山岳トンネルについて、「課題克服に取り組んだトンネル工事－新技術、創意工夫、周辺環境への配慮－」を、また第 89 回施工体験発表会は、都市トンネルについて、「厳しい条件下における市街地での地下構造物築造工事－トンネル・地下構造物の新設、改良、再構築工事の施工事例－」をそれぞれ課題として実施した。

開催については、コロナ禍を踏まえ、令和 3 年 10 月に会場参加とリモート参加を併用した方法で開催した。また、優秀発表者の選考、ベストオーディエンス賞についても実施した。

③ トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験5～10年程度の中堅技術者を対象としたトンネル技術ステップアップ研修会(山岳部門、シールド部門)は、昨年度に引き続き今年度も開催を見送ることとした。

④ 講習会・講演会等

「山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)」、および「山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)」を、リモート形式で令和 3 年 12 月及び令和 4 年 1 月に開催した。

(2) 50周年記念事業

令和 7 年度(2025 年度)に本会は設立 50 周年を迎えることから、事業委員会に 50 周年記念事業準備会を設置し、記念事業の検討を開始した。

令和3年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD 取得単位
【現場研修会】 ー (新型コロナウイルス感染状況を勘案して企画・実施)	開催見合せ			
【施工体験発表会】 2回 第88回(山岳)「課題克服に取り組んだトンネル工事ー新技術、創意工夫、周辺環境への配慮ー」	2021.10.7	106	東京 リモート併用	5.9
第89回(都市)「厳しい条件下における市街地での地下構造物築造工事ートンネル・地下構造物の新設、改良、再構築工事の施工事例ー」	2021.10.8	75	東京 リモート併用	4.7
【講習会・シンポジウム】 2回				
トンネル技術ステップアップ研修会「山岳部門」	開催見合せ			
トンネルステップアップ研修会「シールド部門」	開催見合せ			
山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)	2021.12.10	57	リモート	6.2
山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)	2022.1.28	57	リモート	5.9

令和3年度施工体験発表会 優秀発表者(審査結果)

第88回(山岳)ならびに第89回(都市)施工体験発表会に係る発表者の表彰について審査した結果、下記のとおりとなった(詳細は会誌2022年5月号に掲載)。

第88回(山岳)施工体験発表会 「課題克服に取り組んだトンネル工事—新技術、創意工夫、周辺環境への配慮—」

開催日:令和3年10月7日(木) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:14名

<最優秀賞>

受賞者 大久保 征一郎 清水建設(株)

発表論文 大規模な変状が発生した脆弱な蛇紋岩地山におけるトンネルの施工
—真円形三重支保によるトンネル掘削—

<優秀賞>

受賞者 天童 涼太 (株)安藤・間

発表論文 穿孔作業の集中管理による山岳トンネルの発破の高度化
—玉島笠岡道路六条院トンネル工事—

<優秀賞>

受賞者 星 州人 清水建設(株)

発表論文 Safety2.0(協調安全)の考え方に基づいた山岳トンネルの重機接触災害防止対策
—熊本57号滝室坂トンネル西新設(一期)工事—

第89回(都市)施工体験発表会 「厳しい条件下における市街地での地下構造物築造工事—トンネル・地下構造物の新設、改良、再構築工事の施工事例—」

開催日:令和3年10月8日(金) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:11名

<最優秀賞>

受賞者 首藤 悠歩 大成建設(株)

発表論文 大断面シールドにおける地山探査等による地盤変状抑制
—東京外かく環状道路(北行)大泉南工事—

<優秀賞>

受賞者 猪原 澄也 東京都下水道局

発表論文 狭隘な河川下におけるH&Vシールドによるスパイラル掘進
—立会川幹線雨水放流管その2工事—

<優秀賞>

受賞者 六本木 祥二 東京地下鉄(株)

発表論文 軟弱地盤下に潜函工法で築造された地下鉄トンネルの拡幅における上床版築造工事
—東京メトロ東西線南砂町駅改良土木工事—

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託(請負等)研究を実施した。新型コロナウイルス感染症の感染状況により、昨年度に引き続き制約のある中での委員会活動となったが、自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力点を置き活動した。また、受託(請負等)研究では、4機関から8件の技術調査検討業務を受託(請負等)し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者(発注者)の要望に応えた(受託業務一覧表:26頁参照)。

委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するための情報収集に努め、得られた結果からテーマを選定し調査研究を実施した。各小委員会の活動現況は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

委員長 都築 保勇

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、掲載様式を改めるとともに、関連会社への資材機械の掲載依頼を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えた。

(2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

②地山の変状対策に関連する技術として、変状を予測し得る新技術について情報交換を実施した。また、前年度に引き続き、ウレタン、シリカレジンを含む成分(MDI)の毒物指定について、その後の状況について情報収集を進めた。

③トンネル現場で定常的に実施される切羽観察作業を主たるテーマとして、作業上の課題や問題点の抽出を行い、その解決のための具体的な切羽の評価、状態の記録方法等の整理、検討を進めた。また、過年度に作成した、切羽観察の実務的なポイントを取りまとめた「切羽観察担当者のための基礎知識Q&A」の改良版の編集作業を進めた。

④前年度に引続き品質の高いトンネルを目指した防・排水工とするため、アンケート調査等を基に最新の技術的知見を反映させ、「山岳トンネル工法における防水工指針(平成8年2月刊行)」の改訂に向けた検討(防水シートと排水工の改善点や留意点について解説的改訂)を実施した。

(3) 都市トンネル小委員会 委員長 泉谷 信夫

⑤「シールド工事における新技術」を取り上げて調査検討を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えた。

(4) 安全環境小委員会 委員長 中野 清人

⑥安全対策として「肌落ち」を、環境保全として「重金属」を取り上げ、それぞれWGを設置して調査研究を実施することとしたが、本年度は準備期間として、次年度に備えた。

(5) 保守管理小委員会 委員長 小山 宏

⑦トンネル維持管理業務講習会の基礎編及び実践編について、これまでのアンケート結果等を踏まえて見直し、維持管理に携わる技術者育成の一助となるように企画した。開催形式は、前年度と同様にリモート方式とし、基礎編を令和3年12月10日に、実践編を令和4年1月28日に実施した。

⑧前年度に引き続き、トンネル点検に関する新技術について、情報交換を行った。得られた情報を集約・整理し、会員へ提供することとしている。

2) 受託研究特別委員会（特別委員会）

4機関から11件の技術課題を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置し、委託者（発注者）の要望に応えるよう検討・実施した。

(1) 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会 委員長 三上 隆

前年度に引き続き（独）鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局から「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9」業務、及び「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3」業務を受け実施した。

(2) 効率的点検特別委員会 委員長 西村 和夫

前年度に引き続き（株）高速道路総合技術研究所から「覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成」業務（令和2年度業務、令和3年度業務）を受け実施した。

(3) 盤ぶくれ対策特別委員会 委員長 西村 和夫

前年度に引き続き（株）高速道路総合技術研究所から「盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成」業務（令和2年度業務、令和3年度業務）を受け実施した。

(4) 改築設計施工技術特別委員会

委員長 砂金 伸治

(株) 高速道路総合技術研究所から「トンネル改築の設計施工技術に関する研究」業務（令和2年度業務、令和3年度業務）を受け実施した。

(5) 矢上川地下調節池 施工技術検討会

委員長 小山 幸則

神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターから「令和3年度河川改修工事県単（その3）矢上川地下調整池工事安全確保対策検討業務委託」、及び「令和3年度河川改修工事 矢上川地下調整池施工技術検討業務委託 県単（その12）」を受け実施した。

(6) 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会

委員長 小山 幸則

西武鉄道（株）から「新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運營業務」を受け実施した。

令和3年度受託業務契約一覧

(金額単位:円、税込)

No	委託者	委託件名	金額	工期	担当委員会 (略称)	委員長 (敬称略)	備考
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9	(契約済)	'19.12.4 ～'22.4.30	特別 北海道新幹線	三上 隆	複数年契約
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3	(契約済)	'21.8.17 ～'23.6.16	"	三上 隆	複数年契約 (完成払)
4	㈱高速道路総合技術 研究所	令和2年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	29,997,000	'20.10.28 ～'21.8.23	特別 効率的点検	西村 和夫	複数年契約
5	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	(契約済)	'21.10.28 ～'22.8.23	"	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
6	㈱高速道路総合技術 研究所	令和2年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	30,261,000	'20.6.27 ～'21.4.22	特別 盤ぶくれ	西村 和夫	複数年契約
7	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	(契約済)	'21.8.27 ～'22.6.28	"	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
8	㈱高速道路総合技術 研究所	令和2年度トンネル改築の設計施工技術に関する研究	25,069,000	'20.6.10 ～'21.5.5	特別 改築	砂金 伸治	複数年契約
9	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度トンネル改築の設計施工技術に関する研究	(契約済)	'21.6.9 ～'22.5.4	"	砂金 伸治	複数年契約 (完成払)
10	神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センター	令和3年度河川改修工事 県単(その3) 矢上川地下調整池工事安全確保対策検討業務委託	583,000	'21.5.18 ～'21.9.30	特別 矢上川	小山 幸則	
11	神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センター	令和3年度河川改修工事 矢上川地下調整池施工技術検討業務委託 県単(その12)	1,020,800	'21.10.21 ～'22.3.15	"	小山 幸則	
12	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会営業務	220,000	'18.7.12 ～'23.3.31	特別 西武新宿線	小山 幸則	複数年契約 (*21年度分)
令和3年度会計合計			87,150,800	(6つの特別委員会)			
次年度以降会計契約額			金額	工期			備考
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9	36,498,000	'19.12.4 ～'22.4.30			継続 '19-'22年度
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3	62,953,000	'21.8.17 ～'23.6.16			継続 '21-'23年度
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事事務局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	38,500,000	'22.4.1 ～'25.6.30			新規 '22-'25年度
5	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成	28,853,000	'21.10.28 ～'22.8.23			継続 '20-'21年度
7	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成	40,557,000	'21.8.27 ～'22.6.28			継続 '20-'21年度
9	㈱高速道路総合技術 研究所	令和3年度トンネル改築の設計施工技術に関する研究	27,698,000	'21.6.9 ～'22.5.4			継続 '20-'21年度
12	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会営業務	1,341,360	'18.7.12 ～'23.3.31			継続 '18-'22年度
合 計			236,400,360				

注 工期欄及び備考欄の年は、全て西暦の下二桁で表記している。

8. 表彰(功績賞、功労賞)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和 3 年度から新規事業として「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員に「功労賞」を授与している。

令和 3 年 11 月 17 日から令和 4 年 1 月 31 日までの期間、令和 4 年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞 1 件、功労賞 1 件の推薦があった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、功績賞(個人)1 名、功労賞(個人)1 名の受賞者を決定した。

受賞者は、令和 4 年 6 月 9 日(木)開催の本会定時総会において表彰する。

令和4年度表彰者

表彰種別	表彰者(敬称略)	表彰業績
功績賞 (個人) 1 名	安藤 憲一 一般財団法人 首都高速道路技術センター 理事長	都市部長大道路トンネルの先進的な防災安全技術の体系化および山手トンネル(池袋～湾岸線)の完成と運用管理
功労賞 (個人) 1 名	松岡 茂 鉄建建設株式会社 専務執行役員	25 年に渡る JTA の委員会活動とトンネル覆工コンクリートにおける研究により我が国のトンネル技術発展に貢献

9. 研究助成(研究助成部門、研究奨励部門)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度から「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門(40歳未満の若手研究者対象)の2部門で研究助成を実施している。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和3年9月6日から同年11月30日までの期間、令和4年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、新規・継続合わせて5件の応募があった。申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会(松崎薫委員長)で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度、④研究の進捗状況(継続案件のみ)の3(又は4)項目の評価を行い、今般、5件全ての採択を決定した。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

令和4年度助成研究

部門	助成研究テーマ	助成額	研究者
研究助成部門 3件	支保的インバートの力学的メカニズムと設計指標に関する研究(継続)	100万円	砂金 伸治 (東京都立大学)
	既設トンネルのつらら対策業務の低減に資する研究(継続)	100万円	林 久資 (山口大学)
	膨潤性地山に起因するトンネルの変状メカニズムの解明とその対策の構築(新規)	100万円	崔 瑛 (横浜国立大学)
研究奨励部門 2件	地山物性の空間的な不均質性を考慮した山岳トンネル切羽の安定性評価(継続)	20万円	岡崎 泰幸 (松江工業高等専門学校)
	常時微動計測を用いた山岳トンネルの振動特性の把握に関する研究(新規)	20万円	河田 皓介 (東京都立大学)